

日蓮大聖人御書全集

いもいちだごしよ

芋一駄御書

新版
2038

いもいちだごしよ

芋一駄御書

ぶんえい ねん こうあんがんねん がつ にち

文永 11 年 ('74) から 弘安元年 ('78) の 8 月 14 日

芋 いちだ 薑 ごじつ 把 送 給 そうろう

いも一駄・はじかみ五十ば、おくりたびて候。

身 延 山 もう そうろう 西 白 根 岳

このみのぶのやまと申し候は、にしはしらねのたけ、

雪 見 東 天 子 岳 日

つねにゆきをみる。ひんがしにはてんしのたけ、つねにひを

見 北 身 延 岳 南 鷹 取 岳 しせん

みる。きたはみのぶのたけ、みなみはたかとりたけ、四山

間 箱 底 乾 角 川 流

のあい、はこのそこのごとし。いぬいのすみよりかわながれ

巽 向 峰

て、たつみのすみにむかう。かかるいみじきところ、みねに

蟬

声

谷

猿

叫

き

葦

はせびのこえ、たにはさるのさけび、木はあしのごとし、

草

雨

似

芋

見

そうら

くさはあめににたり。しかれども、かかるいもはみえ候わ

薑

生

石

似

すこ

柔

ず、はじかみはおいず。いしににて、少しまもりやわらか

草

似

味

なり。くさににて、くさよりもあじあり。

ほけきよう

もう

そうら

おんこころ

定

法華經に申しあげ候いぬれば、御心ざしはさだめて

しやかぶつ 知

きようきようきんげん

釈迦仏しろしめしぬらん。恐々謹言。

はちがつじゅうよつか

にちれん

かおう

八月十四日

日蓮

花押

ごへんじ

御返事